

身近な環境について

横浜市立富岡中学校科学部

- ・ 富岡中学校と自然
- ・ 大岡川
- ・ マイクロプラスチック
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大中の世間変化
- ・ ビオトープ

富岡中学校と自然

- 周辺に
- ・大岡川
 - ・野島海岸
 - ・円海山

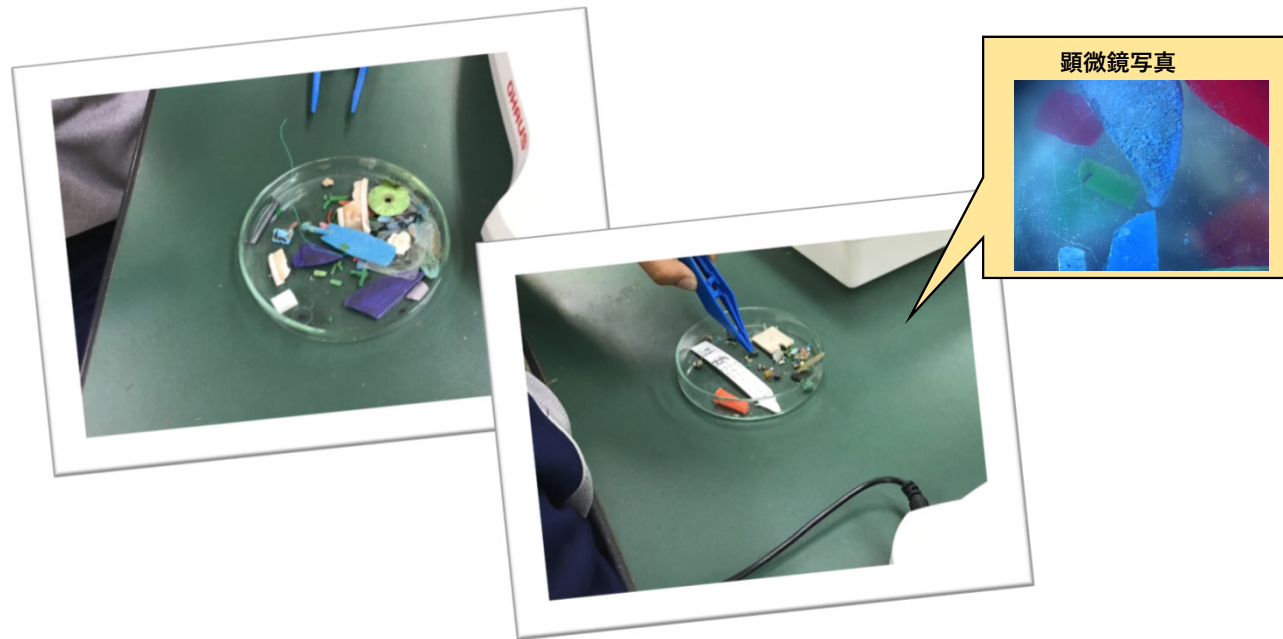


- ・学校周辺の川・海・山などで、水質調査・ゴミの調査を2018年ごろより開始。
- ・川での、pH・CODを継続して測定する中で、プラスチックゴミについて関心を持つようになる。
- ・街の中のゴミが海につながっていることも、街歩きの中で気付き、海での調査も開始。
- ・横浜の自然海岸「野島海岸」でのマイクロプラスチック調査。
- ・横浜の水再生センターなどの見学を行う。
- ・学区内の保護者対象としたアンケートを行う。



海ゴミ問題の問題点

- ・2019年度の本校文化祭（2019年10月）横須賀芸術劇場で、全校・保護者に向けて、身近な環境について、科学部が取り組んでいる内容を発表。
- ・海ゴミ問題は、アンケートでまとめたものを、発表し、学区の中で、プラスチックゴミの問題点を提示した。

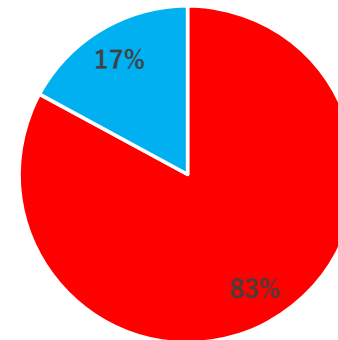


Q. 海ゴミ問題を知っていますか？

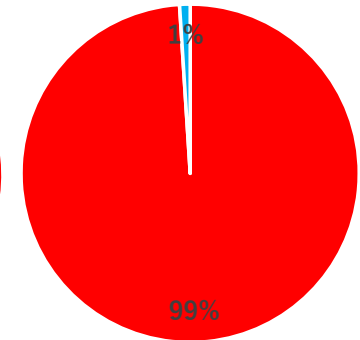
生徒

保護者

■ はい ■ いいえ



母数：269



母数：100

2020年度のテーマ 新型コロナ感染拡大中の世間変化

- レジ袋有料化の実施
- マスクのポイ捨て増加
- 紙ストローの使用率増加

ゴミのポイ捨ては
減った(?)

街中
↓
下水道
↓
川
↓
海

- 川の調査の際に、プラスチックゴミ（特に使い捨てマスク）が多く見られる。
- 水再生センターやゴミ処理施設での変化はないのだろうか？
- 部活動として、発信できることは何か？



①まとめ

- ・大岡川の定点観測は、長い時間で、数値が変化していることがわかった。
- ・野島海岸のマイクロプラスチック調査も継続して続けていく。
- ・コロナ禍の中で、水再生センターやゴミ処理施設での大きな変化はないが、街中でのゴミの様子は明らかに変化した。

②今後の課題

- ・大岡川の定点観測は、長い時間で、数値が変化していることがわかった。その原因について上流の様子も観察していく。
- ・街中でのゴミの様子は変化しているが、それが環境にどう影響を与えているかを調査する。
- ・毎日の生活の中で、身近な環境について、近隣の公園や山・海の状況を定点観測し、市民としての気づき、問題について、自分たちができることは何か考えていく。
- ・市民として、できること、提案できることは何か、部活動の活動を通じて、考えていく。
- ・コロナ禍の中で、活動は制限されるが、できることを探していく。

③コメントが欲しいこと

- ・街中での変化について、どのような方法で調査していくのが良いのか。
- ・アンケートについての内容も質問内容をどのようにしていけば良いか。